

学校生活が止まっても時間は流れ、季節は変化していく。塩釜神社には花期の違うたくさんの種類の桜がある。おかげで、少しずつ1ヶ月半以上に渡っていろいろな桜を楽しむことができる。最後に咲くのは塩釜桜。これがそろそろお終しまい。代りて新緑。「紅葉」と書いて「モミジ」とも読むとおり、モミジと言えば真赤に色づく様子が有名だが、なかなかどうして、モミジは新緑も美しい木である。今はそれが一番いい時期にさしかかっている。

古来「はかなしい人事と悠久の自然」ということがよく言われるが、大きき1万分の1ミリというウイルスに振り回される人間と、そんなことには一切頓着せず、咲き、芽吹く自然の対比は、それとよく似ている。そんな自然を眺めていると、肺炎騒ぎも忘れてしまいたい。

～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～

前回(4月20日付、No43)で、私たちは、「人との接触を減らすため、できるだけ学校に来るな」となぜか言われたい、ということを書いた。暴露話をしてしまうと、実はあの「学年だより」を書いたのは4月16日午後で、印刷したのは17日朝である。送付物の封入作業を、17日10時から一斉にすることになっていたからだ。

ところが、作業を終えて数時間後、県知事が「記者会見で教員の在宅勤務に言及した。発送は週明け20日だから、既にレターパックに入れてあり付けしてしま、たので」入れ替え(書き換え)もできず、そのままにせざるを得なかった。

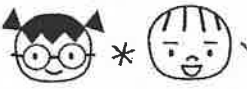
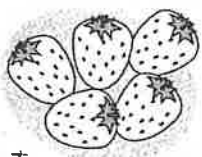
これは、今回の肺炎騒ぎが始まって以来の「朝令暮改」(←意味分かるね?)ぶりによく表している。知事の話聞いた時には、こんな「学年だより」を送るのは間が抜けているなあ、と思ったけれど、よくよく考えてみれば、このちぐはぐさがひとつの記録として面白いように思えてきた。

**臨時休業中における生徒実態調査の結果**

ご存知のとおり、4月24～28日、一斉メールを使って諸君にアンケートを行った。全校で716人(67%)から回答があった(2年生は最少で214人、60%)。

Q: 最近の体調はどうですか?  
とても良い 56% まあまあ良い 42% あまり良くない 1% 良くない 0%

圧倒的多数が元気にしているようでとても安心した。やはり元気が一番! 以下も全て全校データです。ぜひこの調子で!!



以下も全て  
全校データです

Q: 最近の心の状態はどうですか?  
普段と変わらない 58% 少しストレス 32% かなりストレス 7% もう耐えられない 3%

これも、もともと悪い結果を予想していたので、意外に良くて少し安心した。いつもと全く違う生活なのだから、ストレスを感じるのはむしろ正常だ。そのストレスとどう付き合うか? それもひとつの学習課題として工夫してみよう。



Q: 生活のリズムはどうですか?  
きちんとした毎日 15% 時々乱れるけど大丈夫 50% 生活時間が毎日バラバラ 20% 昼夜逆転に近い 15%

この辺になるとかなり怪しい。毎日何時に何をやる、ひとつでもふたつでもそんなことを決めておくといいかも(家の手伝いや散歩がおすすめ)。

Q: 課題の取り組み状況はどうですか? **ここがびらくり!!!**  
ほぼ終了 5% 半分くらい 36% 難しくあまり進んでいない 36% 無理い 23%

全く予想外の結果だ。他校の話聞いては、塩高は課題が少なく甘ったよいなあ、と思っていたから。昨年7月の調査(アンケート)によれば、諸君には、家庭学習時間が1時間くらいまでの人が多かった。今回の休業中、学校があれば平日は授業が6コマ(実質5時間)あるわけだから、通常の家庭学習時間を足すと、少なくとも6～7時間は勉強するのが当然だと私たちは考えている。それでも間に合わないほど、本当に課題出ているか? **休憩時間を除いて、です。** 「ああ?」

自由記述欄には、予習系課題の難しさを嘆く書き込みがいくつかあった。これは確かにそうだろう。そういう悩みを持つ人は、むしろ真面目に頑張ろうとしている人なんだろうなあ、と思う。ただ、今のような判約の下では、簡単には解決しない。自分自身のカで学ぶという大切な能力を身に付けるチャンスと考え、まずは教科書をじっくり読み込んでみよう。

学校に質問に来るのはOK。ただし、分からない点をは、きりさせておくこと。また、必ず電話でア本を取ってからにしてね。

これが勉強の仕方の基本です。「基本」は常にとても大切。

前日も書いたが、課題はただやればいいというものではない。理解し、憶える。必ずそこまでやること。授業せず課題を範囲にすぐ考査... あるかもよ(笑) **ああ恐ろし!**

**とりあえず10日まで**休校延長。その後のことは誰も知らない(笑) 更に休校延長の場合は、多少質問を変えながら、またアンケートを実施するつもり。近況を教えてください。楽しみにしています(スタッフ一同)。



いつも裏には新聞記事を貼り付けるのだけど、ホームページで公開すると著作権が問題になる。そこで今回は私の作文、新聞の代りなめて手書きはやめた。なにかが読者の心に骨が折れるかもしれないが、現代文の課題だと思って読んでくれるといい。

### 【新型コロナウイルスはどれくらい怖いか？】

高村光太郎（1983～1956年）という人がいる。詩人であり彫刻家であり、評論家であり書家でもあった。口語自由詩の確立者なので、妻との関係を歌った詩を集めた『智恵子抄』という詩集の名前は、高校生であれば誰でも知っていなければならない。いや、タイトルを憶えてただの「文学史」にしてしまうのではなく、読んでおくべき作品だ。薄っぺらい文庫本で、今でも容易に手に入るし、言葉も平易だ。その高村光太郎に、次のような短い詩がある（表記を少し改）。題は「当たり前」。

当り前の事でも僕は言う  
当り前の事でも僕はする  
当り前でない事でも僕は言う  
当り前でない事でも僕はする



言葉の意味が分からない、と言う人は絶対にいない。だが、詩の意味が分かるかと言われれば、分からない人は多いだろう。次のように言葉を補うと明瞭になる。

（世の中の人々にとって）当たり前（自分で考えてみて当たり前だと思った時だけ）僕は言う  
（同）当たり前（同）僕はする  
（同）当たり前でない事でも（自分で考えて当たり前だと思ったら）僕は言う  
（同）当たり前でない事でも（同）僕はする

ここで言っている「当たり前」とは「正しい」という意味だ。「人に親切にするのは当たり前なことだろ？」と言う時の「当たり前」である。つまり、光太郎は行動の原点を「一般に言われていること」ではなく、「自分の考え」に求めているわけだ。

自分自身で考えるという場合、どんな考え方をしてもいい、というわけではない。この詩の中には、そんな「考え方」についてのヒントも書かれている。周りの人々が言うことを「本当に当たり前か？」と疑っていることと、利益を基準にせず、正義を基準にして考えよう（正義とは何かを探し求めよう）としていることだ（利益を基準にすれば、多数派に合わせた方がいい場合が多いからね）。そうでなければ、ただの「自分勝手」になってしまいかねない。

これは「哲学」というものの本質をととてもよく表している。

昨年、8月27日発行の「学年だよりNo.16」に、戦争の教訓として、戦争からは次のような人間の性質を引き出せるということを書いた。

- ・景気のいい話、自分に都合のいい話が大好きだ（＝不都合な話からは目を背ける）。
- ・何が正しいか考えず、周りの様子を見ながら自分の態度を決定する。
- ・人から消極的だとか軟弱だとか評価されたくない（＝人から<sup>プラス</sup>評価されたい）。

これは、損得が価値判断の基準になり、相対的に（周りとの比較で）考えているという意味で、「哲学」から最も遠い姿である。このような人間の性質に流されていけば、いずれそれによっていろいろな問題が起こり、しかも過激化する。戦争もその一つ、というだけだ。「哲学」しないことは、とても危険なのだ。

さて、新型コロナウイルスである。世の中では大変な騒ぎである。これほど人の活動がストップするというのは尋常な事態ではないし、テレビも新聞も肺炎一色、まるで世の中にはそれ以外の問題など存在しないかのようだ。命に関わることなから「当たり前」だろ？と安易に考えてはいけない。戦争を考えれば分かる通り、世の中は「当たり前」が幅をきかせる時ほど、「本当に当たり前なのか？」と疑っていなければならないのである。そして疑うためには、自ら情報を集めたり、様々な視点を探し求め、理由を掘り下げるといった面倒くさい作業が必要だ。

また、昨年「社情」の授業で勉強したはずだが、完璧に公正な報道というのは絶対に存在しない。人間が伝える以上、どんな情報も少しずつ偏った形で私たちに伝えられる。その偏りを見抜くのも、疑うことが出発点だ。

表面で紹介した調査の自由記述欄に、「感染が不安なので学校に行きたくない」「コロナが怖い」といった記述が意外に多かった。新型コロナウイルスは本当にそれほど怖いのだろうか？こんなことを考えてみよう。

日本（1億2596万人）における新型コロナウイルスの感染者数は、4月末現在で累積14,088人。それによる死者数は415人で、人口10万人当たり0.32人（＝あくまでも今のところ）。他の年代に比べて死亡率が非常に高い80歳以上を含めても、感染者全体に対する死亡率は2.9%、日本人全体に対する死亡率は0.000032%。その中で30歳未満（もちろん高校生含む）の死亡はゼロである。宮城県（229万人）は感染者88人で、死亡ゼロ。過去1週間に見つかった感染者は4人だ。

一方、昨年、日本では交通事故で3,215人が死んだ。10万人当たり2.56人で、新型コロナウイルスの8倍。通常のインフルエンザでは、その影響によるものを含めると、死者は1万人前後になるという。更に言えば、日本では1年間に約135万人の人が死ぬ。10万人当たり約1,100人、1日当たり約3,700人である。このように考えると、新型コロナウイルスへの感染が怖くてびくびくしているくらいなら、この病気がなくなったとしても、自宅でひたすらじっとしているしかない。私にはそう思える。

新型コロナウイルスが怖いのは、今後どのように変わっていくかが見えないからだ。そんな中で、専門家の意見に素直に耳を傾けること、それに基づいて行われている政治的決定に従うことは大切だ。自分を守る方法も考えた方がいい。だが、どれくらい大変なのか、新型コロナウイルスの危険性と今の社会的対応は釣り合っているのか、それを考えるための基準はどのように設定すべきか…そんなことについて、過熱する報道にあおられずに立ち止まり、頭を冷やして問い直し、その上で「正しく恐れる」。そんな問題意識も持って欲しい。